「石田三成生捕覚書」（1854年）
＝長浜城歴史博物館提供

捕縛状況知る貴重史料

歴博で「三成生捕覚書」が公開

長浜

関ケ原合戦に敗れた知将・石田三成（1560～1600）が、徳川勢に捕縛された経緯などを記した古文書「石田三成生捕覚書」が、3日から長浜城歴史博物館（長浜市公園町）で始まる特別陳列「博物館新収館蔵品展」で公開される。来年1月16日まで。

覚書は、同市指定文化財「古橋村高橋家文書（3333点）」の一つ。1854（嘉永7）年4月13日、越前福井藩の藩士とされる「田中勘助」が古橋村（現同市木之本町古橋）を訪れ、石田三成が捕縛された経緯を村人に尋ねた様子などが記されている。

田中勘助は、武将・田中吉政の家臣で石田三成を捕らえたとされる田中伝左衛門の子孫にあたる。同覚書には「（田中家の）家伝に、石田三成は古橋村次左衛門宅の縁の下で捕縛されたとあるので、古橋村を訪ねた」などと記されている。三成捕縛の経緯については諸説あるが、同館は「捕縛の状況を知ることにつながる貴重な史料の一つ」としている。